

女子看護学生が描くライフイベントとワーク・ライフ・バランス

菱沼春華、下山博子
新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】看護職は約96%が女性であり、看護職を続けながら女性のライフイベントと両立し、ワーク・ライフ・バランスを図ることは難しい課題であると考えられる。

本研究は、看護学生がライフイベントとワーク・ライフ・バランスをどのようにとっていくかと考えているのかを明らかにし、看護職のワーク・ライフ・バランスの実現に向けた示唆を得ることを目的とした。

【方法】医療福祉系大学看護学科の女子学生1年生と4年生を対象に、2017年7～8月に無記名自記式アンケート調査を実施した。調査内容は、属性に関する7項目、女性のライフイベントに関する4項目、ワーク・ライフ・バランスに関する3項目で構成した。分析は、記述統計、t検定を行い、有意水準は5%とした。本研究は、新潟医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】1年生59名(45.0%)と4年生72名(55.0%)の計131名に配布し、回収率は100%で、平均年齢は20.6±1.66歳であった。

1. 将来のライフイベントについて

将来結婚したいと考えているのは116名(88.5%)で、考えていないのは4名(3.1%)、わからないのは11名(8.4%)であった。結婚したいと考えている希望結婚年齢は26.1±1.54歳(97名、85.8%)で、1年生25.7±1.70歳、4年生26.5±1.31歳で有意差がみられ(p=0.01)、わからないのは16名(14.2%)であった。また、将来妊娠・出産したいと考えているのは113名(86.3%)で、考えていないのは6名(4.6%)、わからないのは12名(9.2%)であった。妊娠・出産したいと考えている第1子希望年齢は27.3±1.64歳(92名、82.9%)で、わからないのは19名(17.1%)であった。希望する子どもの人数は2.3±0.54人(96名、87.3%)で、わからないのは14名(12.7%)であった。

将来妊娠・出産したときに理想とする就業スタイルは「結婚して子供を持ち、産前・産後の育児休暇制度を利用して仕事を続ける」が72名(55.0%)で最も多かった。また、結婚や妊娠・出産のために一旦離職した場合、「看護職として復帰したい」は106名(80.9%)であった。

2. 将来のワーク・ライフ・バランスについて

将来理想とする雇用形態は「結婚、妊娠・出産しても正規雇用」が110名(84.0%)で最も多かった。勤務形態に関する知識(表1)は、ワークシェアリングを除いて、4年生の半数以上はすべて知っていたが、1年生で知っているのは半数以下であった。

表1 知っている勤務形態

項目	全体 (n=131)	1年生 (n=59)	4年生 (n=72)
短時間正職員	74名	25名(33.8%)	49名(66.2%)
変形労働時間	30名	9名(30.0%)	21名(70.0%)
ワークシェアリング	22名	12名(54.5%)	10名(45.5%)
時差出勤	43名	18名(41.9%)	25名(58.1%)
フレックスタイム	35名	16名(45.7%)	19名(54.3%)
2交代、3交代	105名	41名(39.0%)	64名(61.0%)
日勤看護師・夜勤看護師	106名	43名(40.6%)	63名(59.4%)
裁量労働制	7名	3名(42.9%)	4名(57.1%)
勤務地限定制度	13名	4名(30.8%)	9名(69.2%)

3. 看護職として仕事をする際に重視することについて

仕事をする上で重視すること(5:とても重要視する、4:重要視する、3:どちらでもよい、2:ほとんど重要視しない、1:全く重要視しない)は、高得点であるほど重要視するとし、各内容(13項目)の平均得点はすべて「どちらでもよい」の平均得点の3点より高かった。「休日余暇」「福利厚生」「院内教育制度」以外の10項目では1年生と4年生で有意差がみられた。(表2)

表2 仕事をする上で重視すること

項目	全体 (n=131)	1年生 (n=59)	4年生 (n=72)
給与	4.44±0.60	4.64±0.51	4.28±0.61**
夜勤体制	4.05±0.80	4.29±0.74	3.85±0.80*
休日余暇	4.44±0.74	4.56±0.65	4.35±0.79 n.s
医療安全・労働安全	4.20±0.81	4.56±0.68	3.90±0.79**
福利厚生	4.40±0.71	4.41±0.70	4.39±0.72 n.s
子育て支援	4.32±0.78	4.63±0.58	4.07±0.83**
職場の暴力体制	4.19±0.98	4.68±0.57	3.79±1.07**
ローテーション・異動	3.91±0.89	4.32±0.73	3.57±0.87**
相談・サポート体制	3.98±0.75	4.29±0.65	3.74±0.75**
看護体制	4.17±0.87	4.56±0.68	3.85±0.88**
院内教育制度	4.30±0.85	4.44±0.75	4.18±0.91 n.s
WLB	4.35±0.73	4.61±0.62	4.14±0.76**
やりがい・働きがい	4.43±0.68	4.64±0.64	4.25±0.67*

**p<0.01.*p<0.01

【考察】看護学生は将来、正規雇用で働きながら、20代半ばで結婚、妊娠・出産という女性のライフイベントを達成したいと考えており、子どもも2人以上を望んでいた。しかし、女性の平均初婚年齢は29.4歳、第1子出生時の平均年齢は30.4歳で、合計特殊出生率は1.44(厚生労働省、2016)であり、理想と現実との間に違いがみられた。4年生では、就職後4年目あたりで結婚を希望しており、1年生よりキャリア形成に関して考えていることが示唆された。看護職の勤務形態に関する知識は、4年生の方が圧倒的にもっていたが、就職に向けた意識の高まりが影響していたと考えられる。また、就職活動において仕事をする上で重視したい項目に関する現状を把握しつつあることによって、1年生より重要視する得点が低くなったのではないかと考えられた。

【結論】看護学生が描く女性のライフイベントには、理想と現実との乖離があり、看護職として働く自分の将来の現実を知ることによって、ワーク・ライフ・バランスの重要視が低くなったことは、看護職のワーク・ライフ・バランスに向けて重要な知見であり、看護学生に対する特有のキャリアガイダンスプログラムの必要性が示唆された。